

協 会 通 信 ~N o. 1~

(2018. 8. 20)

一般社団法人 岩手県中小企業診断士協会発行

目次：ごあいさつ（宮会長） 1 ページ 会長執筆「日報論壇」 8 ページ
理事 6 人の寄稿文（経歴など） 2～7〃 視察研修 9～10〃

ご あ い さ つ

会 長 宮 健

会員の皆様、お元気ですか。5月26日の総会から3カ月近く経過しました。総会の議題として提案した「平成30年度 事業計画書」の中に、「広報活動の実施」があり、「従来の『会長通信』に代えて『協会通信』（不定期）を発行する」とあります。

従来の「会長通信」は、どちらかと言えば、会長の活動報告や協会の行事等のお知らせなどで紙面を構成しておりましたが、新スタートを切る「協会通信」は、「会員の広場」的な紙面構成にしたいと思っております。編集も、できれば理事の持ち回りなど、新企画を探り入れることも視野に入っています。

今回は、理事の皆様から寄稿していただいた経験+随想？を並べてみました。内容は自由としましたので、理事の皆さんとの経験やお人柄などを共有していただければ幸いです。

最近ある会員から、「会長はいまどんな仕事をしているんですか？」という質問を受けました。年齢相応に診断などの仕事は少なくなりましたが、東日本大震災後は、大船渡市の「街づくり委員会」の委員や、水害後の岩泉町の産業復興のお手伝いをしたり、それなりの出番はあります。

また、県や盛岡市、商工団体などの評議員・監事・委員会の委員（長）なども10件ほどあり、それなりに地域貢献（ご恩返し）をしています。

最後になりましたが、すでにご案内のとおり、会員の資質向上と会員相互の親睦をはかるべく、10月20～21日に視察研修を予定しておりますので、ご都合のつく会員はぜひ参加してくださるようお願いいたします。申し込み期限は8月20日となっておりますが、8月いっぱいまでは対応可能です。最後のページに応募要領等ありますので、ご参照ください。

来し方を振り返って

理事 土岐徹朗

1. 26年前の平成4年夏

診断士試験の一次試験の会場なのに、建物の改修工事の音がとても気になり、「試験会場で工事の騒音がするとは何事か」と憤りを感じたのを覚えています。今から思えば、全く心頭滅却できていなかつたと言えます。更にめまいを感じたのは、「技術」の科目でした。岩手で弱電工場に勤務していたことから、当時の登録3分野の一つである鉱工業分野で受験したのですが、技術職ではないので、これには本当にてこずりました。まさかこの年に3次実習に行くことになろうとはこの時点ではとても思えず、不安と失意ばかりで会場を後にしたのでした。

2. 17年前の平成13年夏

仙台で当会現監事の山口先生とばったり出会い、ふと気づくと自分が独立したいという気持ちを口にしていました。先生は「そんな無謀なことはやめた方がよい」とはおっしゃらず、「こういう独立の仕方があるよ」と、淡々と冷静にアドバイスをしてくださいました。家族以外の方にこういうことを打ち明けたのは初めてでしたが、こうなったのも「やはりどうしてもやりたい」という思いが強くなつたからであつて、機は熟したんだなどと自分の都合の良いように解釈して、無謀にも決意を固めてしまいました。この業界で生きていくのは大変なことだろうとは予測していましたが、翌年の春に独立した後、自分がどんな現実にさらされるかなど予想もつかない時期でした。人は明日がどうなるかわからないから、今日を生きていけるのかもしれません。

3. そして平成30年夏

あつという間に独立後16年が過ぎました。心頭滅却の域には到底達しませんでしたが、無我夢中だと、時間の経つのが速く感じられます。浮世絵師である葛飾北斎さんの名作『神奈川沖浪裏』に描かれた富士山のように悠然とはしておれず、波にのまれる船人の心境でした。今も、今秋の各種講座資料を整備するので、日々追われています。昔作った資料をそのまま使い続けるなんて甘い話はどこにもなく、主催者のご要望に応じて見直しをしているわけです。それにしても、ここまで生き延びてこられたのは、当会の皆様を始め多くの方々の後押しがあつてこそと感じています。

4. 更にこれから

当会の中では、理論更新研修の司会を担当させていただいています。理論政策研修は半日間缶詰め状態になるので、本当に参加者の皆様は大変かと思います。その中でも、毎年1回のこの研修の良いところは診断士資格者同士の交流の場になっている点です。久々にお会いする方同士で歓談したり、いつもお会いしていても研修会場といういつもと違った雰囲気の中で改めてお話をすることは本当に有益だと感じます。

このような形で当会の活動に参加させていただいておりますが、少しでもお役に立つようであれば幸いです。

以上

節目を感じるとき

理事 工藤 伸一



はじめに、協会通信に寄稿の機会をいただき感謝申し上げます。

さて本年8月7日、ザザンオールスターズ（以下、ザザンという）のデビュー40周年プレミアムアルバム「海の Oh, Yeah!!」が、発売初週に32.5万枚を売り上げ、8月13日付オリコン週間アルバムランキングで初登場1位を獲得したと報じられた。

ザザンは、私が一関工業高等専門学校在学中からリスペクトしているバンドである。

ザザンの楽曲はデビュー当時、何を歌っているのかわからないと評されたが、裏ではリーダー桑田佳祐が早口言葉のトレーニングをしていたとのエピソードもある。私自身、滑舌トレーニングをするときに思い出す話である。

私がシステムエンジニアとして会社勤務4年目であった年、泉パークタウンスポーツガーデンで開催された真夏の夜の夢 1988 大復活祭は殊の外、印象に残っている。今もこの胸に夏が巡る。

中小企業診断士二次試験に合格した平成10年に発売されたベスト・アルバム「海の Yeah!!」は前述の8月13日付オリコン週間ランキングで7位とトップ10に返り咲いた。「海の Oh, Yeah!!」に同アルバムと「海の Yeah!!」を収納できる紙製ケースが早期購入特典としていたのも興味深い演出である。未購入者に40年間の前半の楽曲と後半の楽曲が収録された2つのアルバムの購入を促したわけである。20年前から私の手元にあったクリアスリップケースは劣化のため破損しており、そのケースからデジパック仕様のCDパッケージを紙製ケースに収納できることは長年のファンにも、ありがたいことである。

話は遡るが X 理論 Y 理論と、それを提唱したダグラス・マクレガーの関連付けを「海の Yeah!!」に収録されている楽曲の歌詞から、なぞらえて覚えたことを思い出す。

ザザンはバンドとしての活動時期と個人個人のソロ活動の時期があることもあり、他のグループと比較して節目を感じさせるバンドと言える。後ろを振り返るといった方向性ではなく、節目、節目で新しい取り組みを行っている。

日本ではこれから大きな節目を迎える。2019年天皇陛下の御退位と2020年東京オリンピック・パラリンピックである。

それぞれの節目に何らかの取り組みを計画している中小企業も少なくないであろう。オリンピック以降は景気が芳しくないと予想されることから、業績がマイナス傾向となることを前提として、自社に大きな変化をもたらす計画を、すでに策定した経営者もいると聞いている。

私自身、約3年前に独立開業という節目があり、現在では公益財団法人いわて産業振興センターで助成金の業務に携わっている。

当診断士協会でも一つの節目として会報が協会通信とリニューアルとなったことも挙げられるだろう。また、私は理事として「いわて実践診断士の会」を担当させていただいている。今年度の事業として、いわて実践診断士の会の高橋 庄平会員と私で実行委員を担当している沿岸視察研修が10月に開催される。7月下旬に案内文が送付されているので、ご確認をお願いしたい。

会員の皆様、10月20日、岩手の湘南「陸前高田」に集いましょう。

テーマ 地域貢献と中小企業診断士

「地域に好かれる中小企業診断士を目指してボランティア」

【自己紹介】

理事：菅原繁雄

一.[勤務先] 有限会社ケイエイ・サポートオフィス

役職 会社役員（代表取締役）

会社事業内容

1. 事業目的

1. 経営コンサルタント業務 2. 会社、個人経営の帳簿の記帳及び決算に関する事務ならびに経営、経理に関する相談及び指導 3. 国、地方公共団体、公益法人その他の企業からの依頼により対価を得て行う市場調査 4 10. 生命保険の募集および損害保険代理業 11. 労働者派遣事業 12. その他。

2. 設立年月日 平成11年5月17日 設立時資本金3,300千円

3. 住所連絡先 021-0053 岩手県一関市山目字中野154-13

<https://keieisupportoffice.jimdo.com/>

eメール keieisupport@gmail.com

二.[略歴] サラリーマン経験:岩手県信用保証協会

支所長・課長・経営支援室経験後平成11年3月49歳早期退職

会社の事業目的に従って主に東北4県の中小企業者・三セク・農業法人等に単発支援。他方顧問先数社の役員を長期間兼ねることで中小企業経営現場に直接関与。現在69歳

三.[地域活動（ボランティア）] 一関市下水道事業経営審議会の長年会長職、農業担い手会の研修や地域文化団体、ライオンズクラブ幹事長経験など、いわゆる地域つくり参画と中小企業者と一体で楽しく過ごしながら息の長い活動を

四.[協会の組織力強化]の思い

中小企業者の方は、「見識をお持ちでらっしゃる・実行力がある」そのような方との出会いが多々です。依頼に対価を得れる分野の人が集う場つくりができれば、結果としての組織力強化につながるのかなと思うこの頃です。

無題

理事 猿川 裕巳

震災から 7 年余。

その後の復興をどう捉えたらよいか判断に苦しんでいる。

グループ補助金、水産庁補助金、高度化スキーム、事業復興型雇用助成金、岩手産業復興機構及び東日本大震災事業者再生支援機構の債権買取、東日本大震災復興特別融資及び特別保証、ヤマト財団・三菱財団等の支援、等々。

様々な支援スキームが活用され、多くの被災事業者が復興を遂げた。そしてほぼその支援スキームも終了の段階に入り、高度化スキーム・特別融資の据置期間も過ぎて、苦しい返済の時期になりつつある。

その間、復興需要で建設業、宿泊業、飲食店等が潤った。イオンタウン釜石、キャッセン大船渡、あばっせ高田など商業施設もオープンした。

さて、この先は？ である。

震災後、海産物が挙って不漁である。イカが震災前の 1/4 まで漁獲高が落ち込み、サケもダメ、サンマもダメ、カツオもウニも、ホタテは今年に入って貝毒が発生し、出荷すらできない状況。

沿岸の水産加工業者はもがき苦しみ、震災後の借入金もリスケジュールの山。

7月9日には、大洋産業㈱が民事再生法の適用を申請したが、中小事業者には同じような状態にありながらも手続きができない（しようとしない）、いわゆる予備軍が相当数ある。

人口も減った。陸前高田市、大槌町、山田町、著しい減少である。人口の減少は、即、マーケットの縮小を意味する。さらに人手不足も深刻である。

また、市町村の総支出額に占める税収の割合は低いところでは 10% を切っている。「復興交付金等が無くなったら」とゾッとしている関係者も少なくはないだろう。

復興需要で多額の税金を納めた沿岸の建設業者も、新たな復興工事の発注は少なく、受注した工事の施工をこなす段階。その後が大変であることは皆、認識済みである。

被災地を訪れる方々も減少。海岸の景勝地（高田松原海岸、浪板海岸等）が流出した現在、何を「売り」に将来観光客を誘致すれば良いのだろう？

ラグビーのワールドカップが終わったら・・。仮に ILC がダメだったら・・。

そんなことはどうでもいい。自分ができることの範疇ではないのだから。

自分が関わっている事業、企業、仕事を淡々と一つ一つやり遂げるだけである。

それが、「沿岸の復興支援につながる」などとカッコいいことも決して言わない。

そんな甘くないことは重々承知している。

「一つ一つ」で良い。そう思うことにした。

略歴

理事 菅原 光政

昭和 53 年 4 月、中小企業診断士登録を行いましたので、今年で 40 年の節目に当たります。当時はまだ 20 代でした。その後大学勤務となり、今日まで私立大学・公立大学の教育・研究に携わってきました。その間を組織内診断士として過ごしたため、企業経営実務と直接的に関わった経験はありません。ただ、大学の教育・研究に携わることで、日本経営工学会や経営情報学会といった経営学を核とした複合領域における理論の世界で関わりを持つことができました。日本経営診断学会もその一つです。

この過程で、多くの学生と一緒に勉強しながら他大学の先生方との交流も深めていくことで、貴重な知見を得ることができました。そして、何といっても学生が卒業後に実社会で活躍していることが最大の収穫であり喜びとなっています。現在は、これまで仕事上で携わってきた内容を理論的に見直し、今後の見通し等をまとめているところです。このような面から、岩手県中小企業診断士協会との関わりが少しでも出来ればと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

「知名度アップ」と「組織の強化」

会長 宮 健

私は今年の7月で事務所開設25周年を迎えました。資格取得は53年前のことです。

今さら「略歴ご披露」でもありませんが、私の岩手銀行時代の業務経歴を辿ってみると、おおよそ以下のとおりです。

1955年入行。北上支店勤務→本店営業部融資課→人事部研修課→経営相談所（長）→東京支店次長→上田支店長→審査部審査役→企画部副部長→中ノ橋支店長→日東捕鯨㈱に出向（監査役）→銀行定年退職（日東捕鯨常務）→1993年同社退社。盛岡に帰る。

この中で特に印象深いのは経営相談所の立ち上げと、10年間の同所勤務です。この間に中小企業診断士の資格を取得し、県内の商工団体や中小企業の経営者たちとの交流を数多く経験しました。最後の勤務場所となった中ノ橋支店では、国の重要文化財である「赤レンガ館」の維持管理にも当たりました。また、日東捕鯨の7年間も貴重な経験です。

中小企業診断協会（当時は東北支部岩手支会）には資格取得後すぐに入会し、諸先輩たちの熏陶を受けました。東京から帰って支部に復帰し、理事・常務理事・支部長を経て、新しい協会の会長に就任して現在に至っていますが、最も思い出深いのは、やっぱり東日本大震災後の復興などに関わったことです。特に古館正規会員（カネボウ化粧品販売岩手支社長）が出張先の大槌町で津波の犠牲になったことと、小山剛令会員（キャピタルホテル1000社長ほか）が震災復興道半ばで他界したことなどが忘れられません。

この間私が心がけてきたのは、「診断士」「診断(士)協会」の知名度アップと、組織の活性化です。特に「知名度アップ」が自分の使命であるという強い意識を持ってきました。岩手日報の「論壇」や「ばん茶せん茶」欄などへも積極的に投稿し、さらに協会の行事などを記事にしてもらおうと、産ビル7階の記者クラブにも時々顔を出すようにしました。

岩手日報以外でも、朝日新聞の岩手版に1年間ほど「岩手流通の先駆者たち」という記事を連載しました。さらに「盛岡タイムス」にもよく原稿を持ち込みました。盛岡タイムスの親会社である日刊岩手建設工業新聞社からは逆にコラム欄の執筆を依頼され、「ズバリ寸評」を毎週1回書き続け、つい最近820回になりました。岩手ケーブルテレビジョンの「宮健のなんでも解説」（1時間の解説番組、毎月1回）も500回近く続いています。

知名度アップはまだ道半ばですが、協会のために私が今やりたいことと言えば、協会の組織をもっと「強固なもの」「魅力あるもの」にしたいということです。「診断士協会」という舟には、プロコンも企業内診断士も乗り合わせています。立場は違っても、協会の会員であることをお互いに誇りに思えるような、そういう協会でありたいと思っています。

「仲間意識の醸成」の真意をご理解いただければ幸いです。

以上

平成 30 年 8 月 1 日

会 員 各 位

(一社) 岩手県中小企業診断士協会

(いわて実践診断士の会)

被災地視察研修について

1. 開催目的 会員相互の資質向上と親睦ならびに組織力強化のため
副題 ～復興工事後の交流人口（観光人口）増加の可能性～

2. 視察研修先 陸前高田市事業者（および大船渡市事業者：希望者のみ）

3. 実施日 平成 30 年 10 月 20 日（土）～21 日（日）

4. 開催スケジュール（移動は各自自家用車または会員同士の乗り合い）

（1）10 月 20 日（土）

12 時 キャピタルホテル 1000 集合（昼食）

13 時 復興した企業（未定）および「アバッセたかた」（大型複合商業施設）

16 時 大船渡温泉へ移動およびチェックイン

17 時 大船渡温泉会場にて座学

講師：大船渡温泉（志田社長）、講演内容は未定

18 時 OR 19 時 夕食（懇親会）

※視察先や研修内容については変更もあり得ますのでご了承ください。

（2）10 月 21 日（日）

10 時 チェックアウトおよび解散

希望者は「キャッセン大船渡」（大型複合商業施設）ほか視察

5. 宿泊場所 大船渡温泉（各自シングルにてチェックイン）

6. 会費 約 11,000 円（宿泊代）

+ 3,000 円程度（飲み物代）

※チェックアウト時に各自精算

7. 実行委員 いわて実践診断士の会 工藤・高橋（庄）

8. 申込および連絡先（メールにて受付）

いわて実践診断士の会（高橋） <st05290+sisatu1020@gmail.com>

※宿泊先確保等の関係もあり、申し込み期限は 8 月 20 日（月）とします。

以上

視察研修申込要領

1. 希望者は高橋庄平会員の「特設アドレス」に直接メールにて申し込む
特設アドレス st05290+sisatu1020@gmail.com 【高橋庄平】

2. メールには次の内容を忘れずに盛り込む

①申込者氏名（ふりがなを忘れずに）

②住所

③携帯番号およびメールアドレス

④宿泊は「禁煙〇 r 喫煙」の別

⑤車はマイカーか乗合希望（多少実費負担いただきます）か

⑥その他質問事項など

ホテルの手配などもありますので、申し込み締切は8月20日（月）とさせていただきます。後日変更の場合はお早めに連絡ください。

以上

☆編集後記

「協会通信」第1号をお届けします。紙ベースではありませんので、適宜コピーして保存していただければ幸いです。

「会長通信とあまり変わりないじゃないか」という声もあろうかと思いますが、できるだけ多くの会員から原稿を集めて、「会員の広場」的な通信にしていきたいと思います。

まずは第1号ですが、今後どのような紙面構成にするか、担当理事を決めるか、持ち回りにするかなど、いろいろ相談・検討していきたいと思います。

最後になりましたが、次回以後の「原稿募集」をしたいと思います。A4版1枚に収まるように、自己PR・随想などなんでも結構です。

原稿の送り先は以下のとおりです。

miyamiya@ictnet.ne.jp では、次号をお楽しみに。（宮）